

成年向け  
同人誌



反逆の代償

# 反逆の代償



黒玉屋

紅玉 kougyoku

ご購入ありがとうございます。

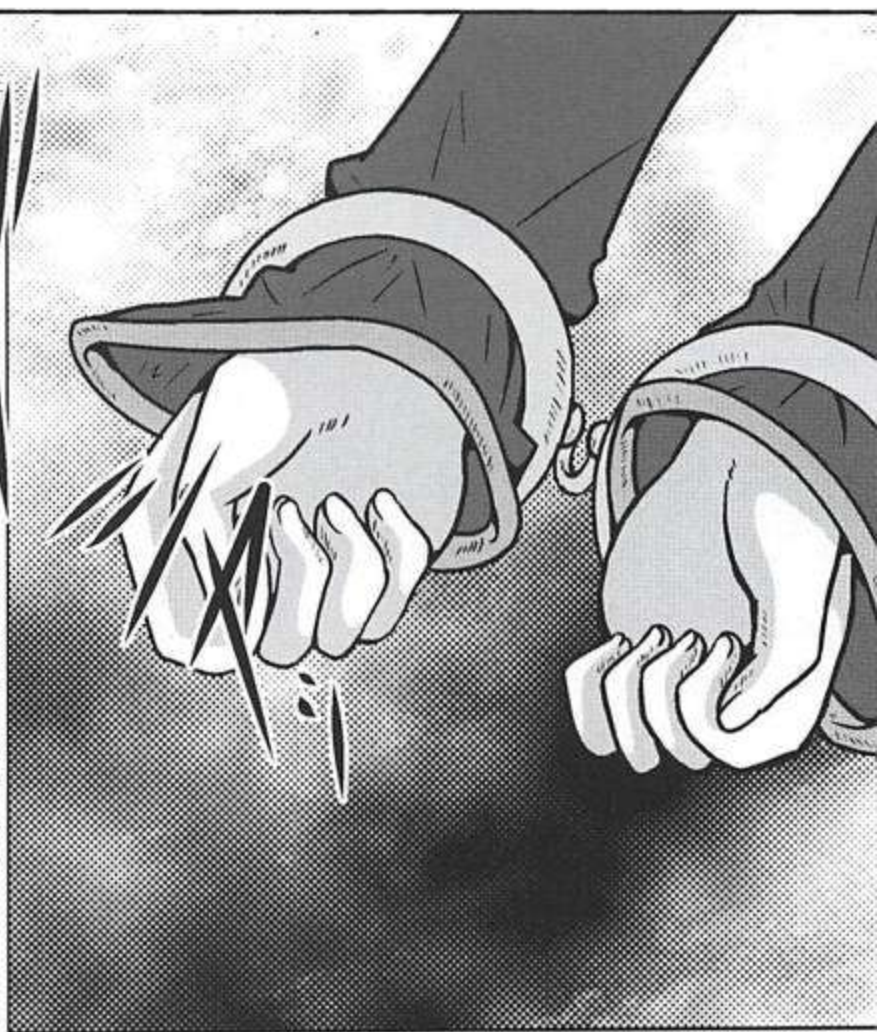


ありがとうギアス

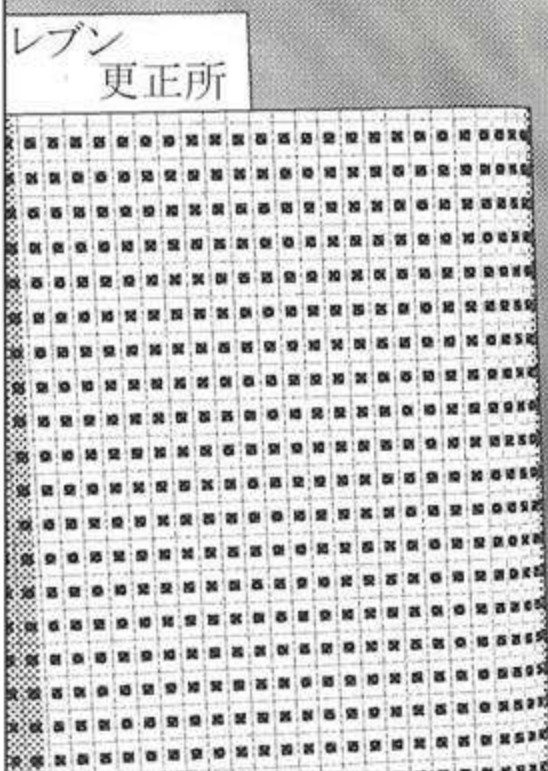
日本を取り戻すために  
独立戦争を起こした  
黒の騎士団、当初はゼロ  
の指揮により善戦した

しかし

戦火の中、突然ゼロが失踪  
それにより指揮系統が  
混乱し黒の騎士団は  
大敗を喫した  
生き残った騎士団たちは  
ゼロの復活に希望を持ち  
続けたが、ゼロ復活は  
起こらなかった



残党は次々と捕らえられ  
更正施設へと送られていった  
エリア11イレブン更正施設



名の通りここではテロ行為を行った  
イレブンの更正が行われた  
廃止されるまでの十数年間、何度も  
内部の情報公開を迫る声が上がったが  
結局どんな行為が行われていたか  
は一切明かされなかった

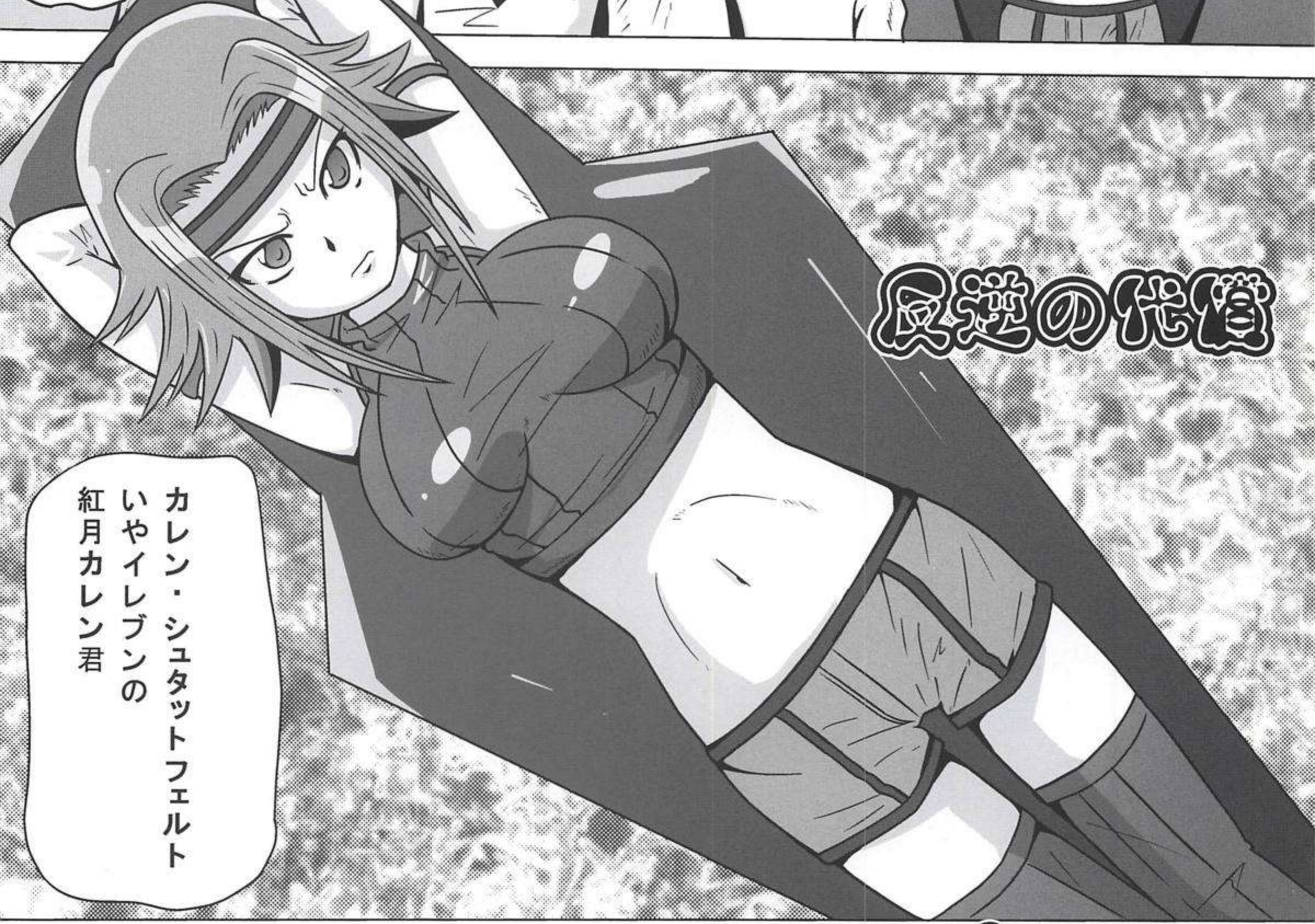


ただこの施設に入った  
イレブンは85%が更正し  
14%が死亡した  
という記録が残されている



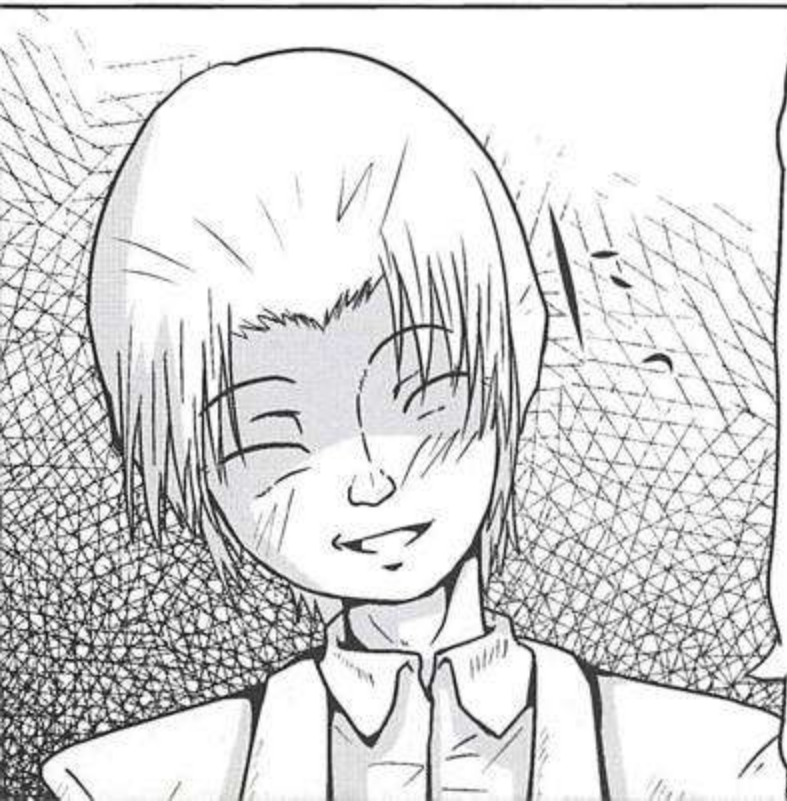


そんなに睨まない  
で下さいよ



# 反逆の代償

カレン・シュタットフェルト  
いやイレブンの  
紅月カレン君



上からも丁寧に扱えと  
指示を受けてます  
じっくりゆっくり  
優しく躱げるようにと



紅月カレン  
重要参考人

貴方は重要参考人だ

*Handwritten signature and notes on the document.*

ではさっそく「こ」での  
ルールを説明しましょう  
単純明快、誰でも理解で

くだらないこと  
言っていないでさっさと  
私を殺したら！

だからルール  
を聞けと言った  
んです  
可哀想にせつかく  
取っておいた  
処女を

ひぎいひぎい

私がゆっくり  
じわじわと

だ・・ダメレエ  
変態ヤロー



おくう、奥に  
入ってきてるっ



そういう反抗的な態度  
を取るから痛い目に  
合うんですよ

この変態ヤロー  
どこ触ってんのよ



いひいひいひいひい

カレン君これは授業なんだ  
キミを素直ないい娘に戻すための  
キミはとても優秀だ  
操縦の技術はラウンズに匹敵する  
帝国は優秀な人材を求めている  
我々と共に

黙れえ  
私は日本人だ

まだまだ教育  
が必要みたいだ

和は日本人総月カレン  
カレンシュタットフェルト  
なんかじゃない！

なにをされたって私は  
日本人だ誰がブリタニア  
なんか屈するかわたしは





入ってくるなあ！  
中にこれ以上入ったら  
あぎいいいいいい



や・・やめろおそんなモノ乳首に  
近づけるなあやめ、ちゅー、やめろ  
だめそこは乳首はあああ



乳首から入ってきてる  
私の胸にナニかやら  
きもちわるい

あっぎいいいいい

左も注射しなきゃね



薬が回るまで時間がかかりますし  
他の生徒さんの授業でも  
見ましようか、カレンさんもお友達  
がどうなったか気なるでしょう

あっぎいいいいい

ナギタンもブリタニアに忠誠を誓いなよ  
そうすりゃオレが名誉ブリタニア家畜民として一生飼ってやるからよ

そ・そこをいじるな  
ダメだそこは敏感な



あああああ

気色の悪い呼び方を  
するな私は  
黒の騎士団壱番隊長  
千葉凧沙だ！

そこじゃ  
わからんよ  
ナギタン



反抗的なナギタンも可愛いよ  
だからお尻にイイモノ  
あげようねえ

そんなモノ入れる  
場所じゃヒギイ

ぬ・抜け  
こな

ケツ穴バイブ  
ぬきぬきしたいの？  
じゃあむき  
まちようか

ちよ・待って  
そんな  
いきなりは

あははは  
こりや  
楽しいは

あ  
あ  
あ

3.14

カグヤ様ケツ穴も  
しっかりと絞めて頂き  
ませんと終わりませんよ

やらもうやら  
ちゃんと絞めふから  
少し休まへえれ

おやかグヤ様  
お疲れでしたか  
ではまたお薬を

ヤラアそれもう  
ラメそれ頭が  
ヘンになるう

遠慮しなくていいん  
ですよこれはゴリラ用  
の強力な薬ですから  
塗れば一発で元気に  
なれます

ヤラ、カグヤ  
おかしくなる  
頭パーになるう  
ヤラそんなのやら

ここには念入りに



さっかゲヤ様  
大好物のチ○ポ  
ですよ

ああああ



飛ぶカゲヤもう  
おかひぐうなる

暴れては危ない  
ですよカゲヤ様



チ○ポ、チ○ポ、カゲヤのチ○ポ  
舐めらいペロペロして  
じゃぶりだいチ○ポじゃぶる  
カゲヤおチ○ポなめなめするう



うぶうぶづき  
カゲヤ臭いチ○ポ  
ライツキイイイ



好きなだけチ○ポでも男汁  
でも啜って下さい

ほれほれちゃんとして反応しない  
ともっといっぱい尻マ○コに  
パイプ入れてガバガバ  
尻マ○コにしちゃうぞ

やらあガバマ○コや  
もう入れないれナギの中  
入れちゃやらああああ

叩かれるのも  
マンコほじられるのも  
いやならブリタニアに  
忠誠誓いまちゅうか？  
ナギタン？

ぢがうナギは  
ブリタニアにもう  
逆らいませんから  
ゆるじれ

ううんまだ誠意が  
足りないでちゅねえ  
はいもう一回

ナギ、フリタニアの  
家畜になるなりゅうから  
ガバマ○やめへえ

もうやめへえ  
ええええ





カグヤのマ○ロに入れへえ  
精液便所でもなんれもいいから  
カグヤに千○ポ入れへええええ  
千○ポ、千○ポ、千○ポ  
いれへええええ



この醜態を見た残党の  
方々はどう思うでしょうね  
ブリタニアに対する  
怒りか、恐怖か

ちゅらちゅらいい  
もろカグヤに

ぎほちいいい千○ポよすぎ  
れカグヤいぎじぬううう

彼女には雌豚と  
して醜態を晒し  
続けて頂きます

見せしめです  
ましたがよろしかった  
のですか？

雌豚に千○ポ  
ちゅらちゅらいい



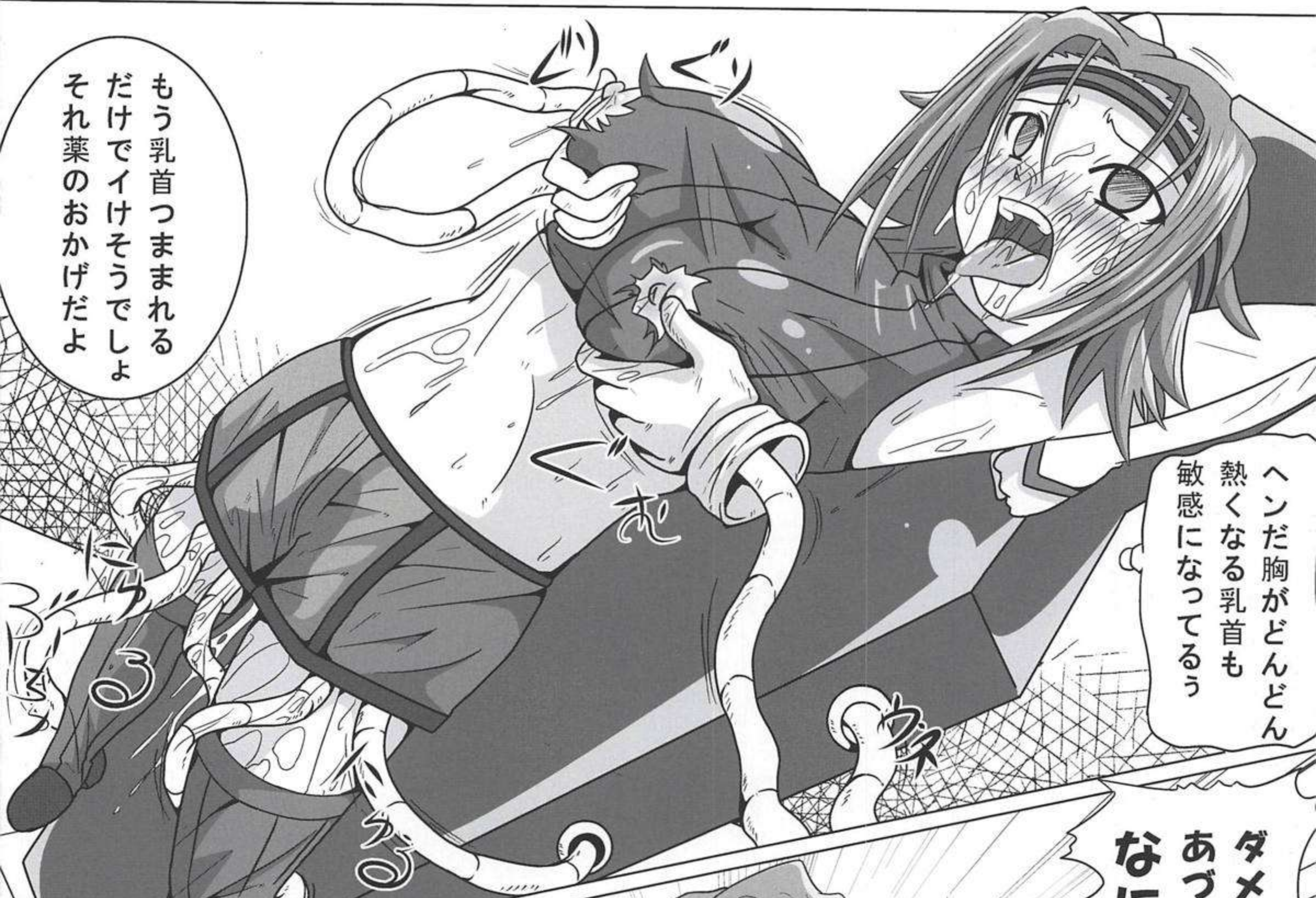




引っ張るなあ  
乳首そんな  
引くらああ

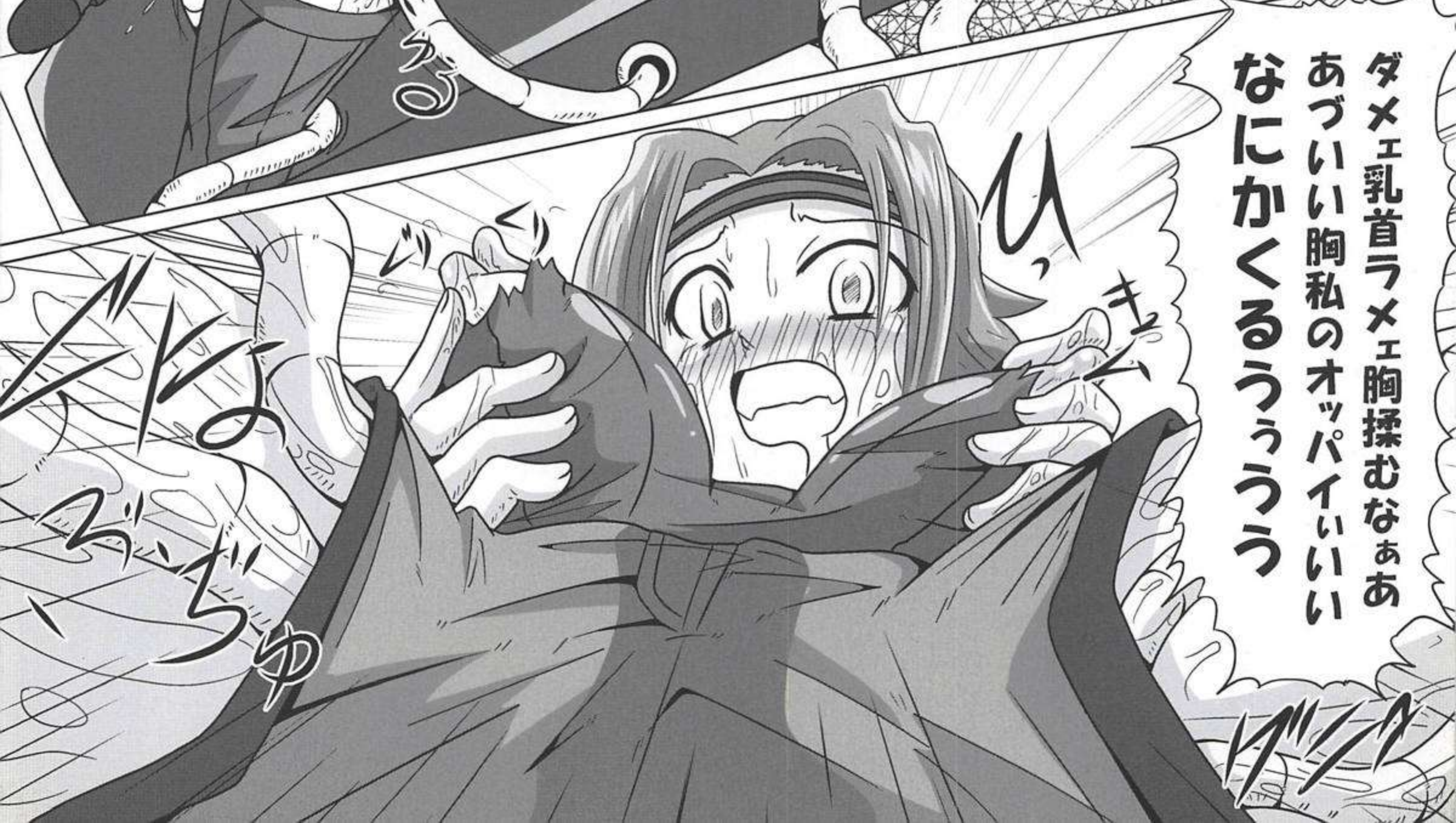


ひいひい



もう乳首つままれる  
だけでイけそうでしょ  
それ薬のおかげだよ

へんだ胸がどんどん  
熱くなる乳首も  
敏感になってるう



ダメエ乳首ラメエ胸揉むなあ  
あづいい胸私のオツパイいい  
なにかくるううううう



あぎいいいい

やっと  
できましたか



R-R pi pi



そんならどうしれ私  
の胸から乳がやらそんな  
おかひいよこんら

あつどうもこっち  
も整いました

はい、はい、では予定通り  
でいいですねはいでは  
お待ちしています



さっカレン君キミたちを  
ブリタニアに忠実な犬に  
する更正授業を続けようか



さっ早く  
入りなさい

ほら二匹とも  
挨拶なさい

フリタニア軍で飼って  
いただいている性処理  
専用雌豚カゲヤれす

オチ○ポが大好物  
なんれすうう  
ガバガバのはしたない  
オマ○これすけろ  
かわいがれくらさいい



びしょ  
びしょびしょ

びしょ

びしょ  
びしょびしょ

私はもう逆らえない

ひぎゃあああああ

ちやめへえええ早への  
ちらあああああ

挨拶の言葉が全然違う  
じゃないか！このブタ！  
またお仕置が必要か？  
ガバマココになるかあ？

ヤラあお仕置き  
いやあああ  
ナギいい娘に  
しまふから

ナギはフリタニアの  
家畜れすうう  
フリタニアに忠誠を  
ちかいまふうう

1 1 2 物

カクンカクン

あーん

カグヤらちも楽しい  
ころじまひょろじま

カグヤ様正気に

あん、こんな淫乱オッパイ持ってる  
くせにつまらないころ言わないれ  
くらはいよほらお汁がこんらに





はち  
ちゅ  
ちゅ

ちゅ  
ちゅ  
ちゅ

あ  
あ  
あ

れらほごほ  
おひひがいっぱい  
れましらほほ

ちゅ  
ちゅ



風沙君は今日も中華連邦  
の方で功績をあげたそうだよ  
とても従順だったそうさ



もうすぐキミも出撃だ  
カレン・シュタットフェルト



「やっと再開できましたC2様」  
「ああっなんと素晴らしい日だ。C2様と生きて再開できるとは」  
「ギアス財団。ルールーシユに潰されたと思ってたけど」  
「えええ、ええ。一度は潰されました魔王ルールーシユと魔女の手によって」  
「しかし、世界には我々を求める声が多いのですよ」  
「今となつてはルールーシユに感謝しているくらいです。  
ギアスを知るモノの大半を世界から排除し、  
実験に歯止めをかけていたあの兄弟を駆逐してくれた」



まあその代償として、私は左腕と、右の目失い。  
命よりも大切だった家族を殺され、  
体にも顔にも無数の裂傷が走り  
歳月の過ぎた今でも私の顔は  
それらの傷跡で醜く歪んだまま。

もう私には貴方しかならぬのですよ。

# 共犯の代償



抗うという気は起きなかった。  
というよりも抗いようがない  
彼らは私を熟知している。  
数百年生きてきた魔女と畏怖されていようと、  
力は小娘ていどのモノしかなく、  
口から吐き出される言葉もたんなる  
はったりだと、よく理解している。  
逃げられるわけがないのだ。  
心を閉ざし時が過ぎるのを待つしかない。

「では。2様身体検査から行わせて頂きます」

「好きにするといい」

体をマジックハンドのような触手に  
拘束され私は、意思と反した  
滑稽な体位にされる。

「なっ」

触手は私の股間を撫で回し始めた。

「これが実験？」

不安で悲鳴をあげそうになりながらも、

私は冷静な声を出す。



「そうです。シャルル様にはこういった嗜好の実験は、  
許可して頂けませんでしたからね」

当然だ。こんなふざけた行為が実験。

たんなる陵辱。シャルルが許可を出すわけが無い。

「うっ」  
触手の動きは活発になり、  
股間を責める数も一本から二本、三本と増えていく。  
しかも表面がザラついていて  
股間を撫でる度に強い刺激が走る。



「安心して下さい触手の指先や表面には  
C2様のお体を図る装置が無数に  
取り付けてありますので」  
「それらの突起がC2様を十分に  
感じさせてくれるはずです」



悔しいがその言葉の通りだった。  
私の股間からはだらしなくも液が垂れ、  
股を伝い衣服を湿らせていく。

「ひぐう、ひい」

歯を食い縛っても口からは吐息が漏れ、卑しい声をあげさせる。

「そろそろ表面だけでなく中も  
見せてもらいましょうか」  
「な中ってまさか」

撫で回していただけの触手が、  
なんの躊躇いもなくその  
指を秘部に突っ込んでくる。  
そして力まかせに開く。



「まだまだです」  
「や待て」

私の悲痛な願いなど叶えられるわけもなく  
触手は広がった秘部に潜り込む。

「ひいひいひいひい」

「やはり処女ではありませんでしたか、少し残念です」  
「当たり前だろ私が何百年生きて、ひぐう」  
必死の強がりも容赦なく突き進んでくる  
触手の苦しみで、あっさりとかき消される。





や  
ん  
ん  
ん  
ん

ヒ

「ひう・はあふう」  
なにも言い返せず私は  
乱れた呼吸を戻  
そうと空気を吸う。

「しかしいくら生きていても  
性感は抜群のようですね」  
ぐっしよりと塗れた私の  
股間を眺めながら男は笑う。

「あきいいい」

しかし、呼吸は余計に卑しく乱れ、  
体が火照り汗が流れる



「うぐうぐ」の触手ど「まで」

一向に体内で前進を止めようとしない

触手に恐怖を覚え私の口から、

返答の期待できない質問が漏れる。



もうとめへえ  
これ以上はらめえ

「ど」までものです」

背筋に悪寒が走る。

「どこまでもって、やめる、止める、そんなひぎい」

「大丈夫ですよ貴方は絶対に死なない、いや死ねないんでしたね」

「やめる、とめへ、触手、とめはあふう」

恥も外聞もなく私は悲鳴を上げる。

こんなに情けなく人に頭を下げるのは

何時ぶりか。羞恥と行為で真っ赤に

なった顔で私は哀願する。



「だ」ぼ、どぐ、

「これじゃあひいぐうう」

すでに触手によって

いくつかの臓器を破られた私は、

まともに喋ることもできない。

あーあーあー

「やら、しほしぶな」

上がってくる、どんどん止まることなく触手は

上がってくる。それがわかる感じられる。

普通ならとつくに死んでいるはずなのに  
ギアスの呪いに縛られた私は死ねない。  
悶絶の苦しみの中、痛みで何度も気絶し、  
激痛で何度も起こされる。

胃を過ぎ、肺を貫き、  
食道を食い破り、  
縦横無尽に私の中を  
暴れ回った触手はついに  
終点へと向かっている。

「あぐらうひひひひ」  
もう私に言葉はない、  
涙で視界が霞、  
痛みで気が遠くなる  
口からはとめどなく  
涎が垂れ、  
顔を涙と涎でべとべと  
にして

無力な私は  
ただその時を  
迎えた。





私を貫いた触手は体の中から  
あらゆるモノを引き抜き撮取  
してゆく。喰われる  
自分の中から喰われる  
永劫の時を生きてきたが  
こんな体感は初めてだった。  
そこにはひたすらの地獄しかない。

ひたすら  
ひたすら

数百の失神と  
数百の覚醒を  
強制的に数十時間以上  
味わった私の意識は

しだいに体を  
射抜く  
触手の数は  
増えていく。  
一本、二本。  
その度に私は気絶し、  
痛みで起きる。  
ひたすらに  
その繰り返し。

ひたすら  
ひたすら

「おやおやお完全に寝て  
しまいましたか？」  
「流石の貴方も貫通は  
辛かったようですね。  
しかしそのおかげで  
貴方の上半身の構造が  
完璧にわかりましたよ。  
サンプルもたくさん  
手に入りました」

誰かが霧の向こうで  
笑っている。  
私はナニをしている  
んだらう。  
体が動かない。  
朧な世界で私は  
ゆっくりと思考する。  
「ほらそろそろ起きて  
下さい。  
実験はまだまだ  
続きますよ」

思考は無駄だった。私の覚醒を男は待ってくれなかった。

ハヤメ  
スス  
スス  
スス





「ようやくモルモット  
らしくなってきましたね」

「くっくくくくくく」

「しかし主人様とは、  
それが昔の貴方というわけですか」

クスクスと忍び笑いをする  
男の前に、私の目から大粒の涙が  
ぼるぼるとこぼれ始める。  
止まらない。止められない。  
赤面しべたべたになった顔が  
堪らなく恥ずかしく  
私は首を折る。

こんな感情が自分の中にまだ残っていたとは。

「では本日の実験は  
これで終了とします。  
お疲れ様です  
ゆっくりと食事でもして  
明日の実験に向け  
十分な休養をおとり下さい」

「うぶうぶうぶ」  
男の言葉が終わると同時に  
触手が私の口をこじ開け  
生臭い液状のナニかを流し込んでくる。  
それに抗う術のない私はいやおうなく  
それを飲まされ続けるしかなかった。



「あああひひいいいふうう」  
それから毎日実験という陵辱の日々だった。  
股間とケツに何本もの触手を突き込まれ、  
愛液と涙を垂れ流す。  
常人なら致死量となる媚薬  
や検査薬を投与され  
今では風が肌を撫でるだけで達ししてしまう。



流されないよう懸命に  
耐えたが、触手たちは  
勃起した私の乳首や  
真っ赤に腫れあがった淫蕩を  
容赦なく責め立てる。

そして思いしらされる  
すべては無駄な努力だと。

私に許された  
抵抗はひたすらに  
従順に卑屈に  
哀願するだけ。

従順にただただ従順なモルモットとして生きる日々。

「助けテクダサイ。  
でもやめて下さいませ。  
何でも言うとおりに  
しますから  
どうかこれ以上は、  
許してください  
ませご主人様」



私はわかってきた。

男にとってこれは実験であり復讐なのだ。  
ギアスへの好奇心。

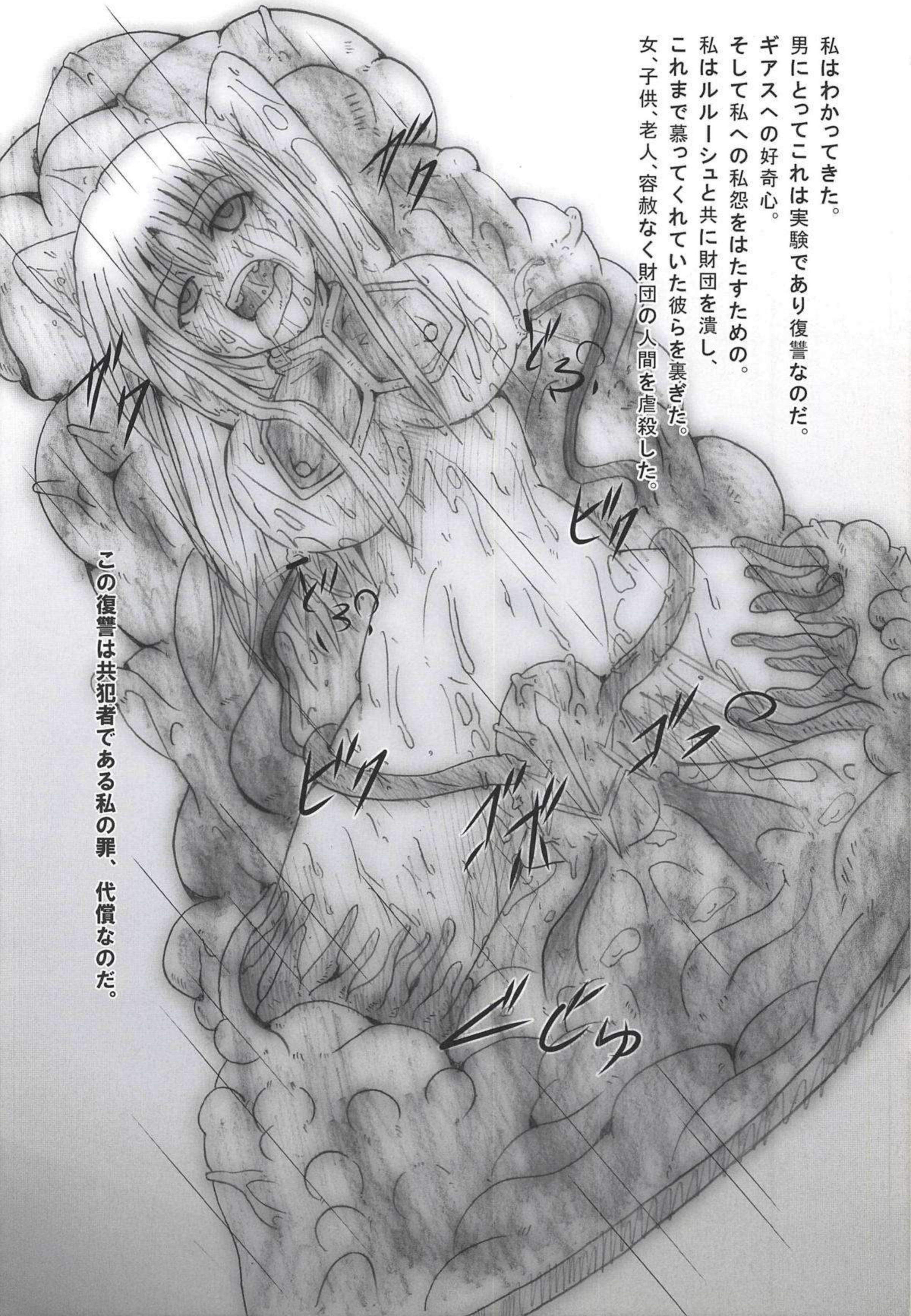
そして私への私怨をはたすための。

私はルルーシュと共に財団を潰し、

これまで慕ってくれていた彼らを裏ぎた。

女、子供、老人、容赦なく財団の人間を虐殺した。

この復讐は共犯者である私の罪、代償なのだ。



そんなとりとめもないことをぼんやりと考えていると、  
頭が軽くなる奇妙な感覚に襲われた。  
強制的に送られてくる快楽で気を失いかけているのだろうか。  
しかし、それとは違う感じもする。  
頭から体が崩れるような、自分が消えてし…。

しかし、ルルーシュ。  
私はいつになったらこの檻から開放される。  
私はいつになったら死ねる。  
一人で何千人も殺し、何万もの私怨を背負った魔人ですら  
死ねばそれで終わりだというのに。

イボ

イボ

イボ  
初  
初

イボ  
ちよ

イボ

イボ

イボ



## あとがき

ショートパンツから伸びるほっそりとした肉付きの良い足。  
視線を上げればそこにはピッチリとした戦闘服を身に着け、胸のラインがはっきりと  
わかる悩ましい光景、そして極めつけの赤い髪。

アニメが終わった今でも描かずにはいられなかった。  
そんなギアスは面白かった。いつかスパロボに参戦できるんでしょうか？  
Kではガンソードまで参戦するらしいからもしかすると数年後には・・・。

ではではまたお目にかかれる時を祈って。

## ・ 禁止事項 ・

無断転載・無断複製・未成年者の閲覧  
内容をデータ化してweb上にアップロードすることはお止めください。

## 反逆の代償

発行日・2009・3・20

発行者　・紅玉

印刷所　栄光印刷

発行者連絡先

<http://kurodamaya.web.fc2.com/>  
[akadamatenpo@yahoo.co.jp](mailto:akadamatenpo@yahoo.co.jp)



ひゃあ  
わあ  
わあ

左も注射しなきゃね

あっきい

乳首から入ってきてス  
私の胸にナニかやら  
きもちわるい

をか  
け

「ひう・はあふう」  
なにも言い返せず私は  
乱れた呼吸を戻  
そうと空気を吸う。



ヤラアそれもう  
ラメそれ頭が  
ヘンになるう



の強  
塗れば一発で元気に  
なれます

ヤラ、カゲヤ  
おかしくなる  
頭パーになるう  
ヤラそんなのや



こんな  
何時ふりが羞恥と行進を責めるのは  
なつた顔で私は哀願する



黒玉屋